

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「夢 (gift) を明日へ
つなげよう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーは親睦と
奉仕の融合」



世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度

国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン
2560地区ガバナー 山本 和則
高田ロータリー会長 水上 喜芳
幹事 大島 誠

事務局:新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス: takadarc@joetsu.ne.jp
例会場: デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
田中 正人 小熊 貞良 栗田 修行
笠谷 吉春 小林 豊茂 霜村 浩

第33回例会 ■ 3月4日(金)

No.33

会長挨拶 ● 水上 喜芳



皆さんこんにちは。
待ちに待った弥生3月、昨日あたりから春の季節の到来を感じさせるようになりました。
さて今月のロータリー特別月間は『水と衛生月間』となっています。

現在、世界人口73億人の約1割、7億5千万人が飲み水に困っており、また日本では当たり前の水道の水が飲める国は世界170ヶ国中たった15ヶ国しかありません。

アジア圏では日本とアラブ首長国連邦の2ヶ国のみとなっています。

世界のロータリークラブは過去マッチンググラントやWCSを利用し飲み水確保に苦しむ国や地域に井戸を掘って提供してきました。

その数はロータリー財団が補助金を支出した件数で毎年度、飲料用井戸が約200件、トイレが150件になり、累計では合わせて5千件を超えるプロジェクトが世界で実行されてきました。

また日本のロータリークラブでも同様、過去多くの農業用水や飲み水用の井戸を掘り提供してきました。

しかし、ポンプの耐用年数が過ぎたり、故障したりすることにより、多くのポンプが毎年、使えなくなっているのが現実でした。

それが、3年前からの新補助金制度になり、グローバル補助金の支出要件の中に『補助金プロジェクトの活動成果を長期的に持続させるための計画を含んでいること』が入ったため、それまでの補助金プロジェクトからお金を徴収してはならないとの考え方が大きく変わり、その設備を維持するための使用料を徴収し、設備維持組織を育て

ることが出来るようになりました。

ロータリーの補助金プロジェクトがより地域に根差し、又より長期に渡り人々の役に立つ事業になってゆくことを期待したいと思います。

本日の会員卓話は北越銀行高田支店長の小林幹央さんからお話を頂きます。よろしくお祈りします。

出席報告

出席率 94.34%

メイクアップ

東山昕也君・澤井祥典君 (3/3 上越教育大学国際交流のつどい)

セレモニー

新会員入会式



加藤 公一君 (平安セレモニー(株) 執行役員部長)

スポンサーバッチ贈呈

大島 誠君 (吉田 巧君のスポンサーとして)

委員会報告

プログラム委員会 (宮澤委員長)

水上年度も残り4カ月となり卓話の機会も少なくなりました。卓話者の推薦をされる委員会は早めにお申し出ください。

水上会長の方針の「例会見学者」是非たくさんの方をご案内いただきたいと思ひます。

ロータリー財団 (佐藤委員長)

今年度の寄付額ですが、目標に対して平均で一人当たり約3,000円不足です。是非とももう一声ご協力をお願いいたします。

会員卓話

奮闘！ベトナム日系企業の現場

～動画でみるベトナム海外視察レポート～

小林 幹央 君



昨年11月、当行の役員部店長を対象とした海外視察研修でベトナム日系企業を視察してきました。本日は、私が現地企業で撮影した「動画」を観ていたさながら、急成長を続けるベトナムの最新事情をお話ししたいと思います。

■ベトナムの魅力は増え続ける人口

ベトナムの魅力は何といっても「増え続ける人口」。現在の人口は9千万人強だが、2030年には1億人を突破する。平均年齢は29.2歳。ハノイやホーチミンで洪水のように溢れてくるバイクの数が人口パワーの凄まじさを物語る。日本の昭和30年代後半のような光景に、驚嘆、懐古と同時に羨望の感情が沸いてくる。

しかし、ベトナムにも高齢化問題は存在する。高齢社会（65歳以上が14%以上）に入るのは2033年でそのスピードはアジア最速。日本が高齢社会に入ったのは1995年で、その頃日本は世界有数の豊かな国となっていたが、ベトナムは豊かになる前に高齢社会を迎えることになる。その頃ベトナムは社会保障をどうするのか課題は大きい。

■ベトナムの魅力はやはり労働力

ベトナム人工場労働者の平均賃金はハノイで3万円、ホーチミンで4万円程度。中国よりかなり安い水準。質の面でも、真面目で器用、集中力があるとされており、識字率は93%と東南アジアでは比較的高い。「親日的」な面でも中国よりやりやすく、「日系企業にとって居心地の良い国」と言われている。

反面、移り気で離職率は高く、終身雇用の考え方がない。社会保険制度がなく、その日暮らしという点では、日本人と大きく異なるところが難しい。

■ベトナム進出の留意点

ドイモイ政策により民主化は進んだが、元来社会主義国家。旧態依然とした行政手続き、横行する賄賂、国営企業優先の原理などが進出企業に立ちはだかる。法整備も経済成長スピードに追いついておらず不十分。簡単に進出はできない。

また、ベトナムのGDP成長率は6%とかなり高いが、名目GDPは1,878億ドルで日本の3%、インドネシアの22%、タイの半分以下の水準だ。

所得もまだ高いとは言えないから、内需を期待した進出には注意を要する。

やはりベトナム進出の定番は安い労働力に着目した「加工輸出型の製造業」だが、素材産業と裾野産業が育っていないため、工場進出を果たした日系企業は、原材料や部品調達に苦労している。このためJETROでは、日系企業が求める品質レベルの原材料や部品を供給できるベトナム企業のサプライヤー情報提供し、部品調達商談会も定期開催。裾野産業を担う日系企業の進出も支援している。

■日本流がベトナム人労働者の心を掴む

「ベトナム人にどう合わせていくか悩む日々が続いた」と、住友商事が開発したタンロン工業団地に早くから進出したSDベトナム（東証二部／オーナンバの子会社）の社長はそう語った。

ある時、日本では当たり前となった「5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）」を徹底。そして、全てにおいて根気よく「教育」すると、ベトナム人はこれを素直に受け入れてくれた。

「中国の時とは違う」。定着率の低さから当初は難しいと思っていた「技術認定制度」を導入。待遇に直接影響させることで従業員のモチベーションが上がり、今では逆に定着率アップにつながっていると話す。

そして、福利厚生も各社とも日本流を導入。社員食堂を充実させ、フットサルなどのスポーツクラブを作り、社員旅行で海水浴に行くことで、労働者の満足度を上げている。

■我々は世界とどう向き合うべきか

急成長のベトナム。その若々しいパワーは凄まじく、日本の昭和30年代を見るようだった。その発展を支えているのが、若くて勤勉な労働力。とりわけ一生懸命働く女性の姿は印象的だった。

人口減少、地方創生が課題の日本とは対極にありながら、互いに持たないものを持っている両国。今回の海外視察旅行で急成長を続ける新興国を体感することができ、私自身、海外に目を向ける大きな契機になったと思う。

やはり世界は広い。でも身近だった。

我々は世界とどう向き合っていくべきか考えていきたい。

以上